

## 日本語から見たヒンディー語のとりたて詞 (focus particles)

今村泰也、プラシャント・パルデシ  
 国立国語研究所

日本語の「だけ」「さえ」「も」などは文のある要素を際立たせ、特別な意味を加えることから「とりたて (助) 詞」と呼ばれている。現在、国立国語研究所の「とりたて表現の対照研究」プロジェクトでは、世界の 14 言語のとりたて表現を研究しており、発表者はヒンディー語を担当している。

本プロジェクトのリーダーである野田尚史はとりたて表現が表す意味を以下の 6 種類 (3 系列×2 項対立) に分けている。

【限定】「だけ」「ばかり」「こそ」	例：時間がなかったので、第 1 章 <u>だけ</u> 読んだ。
【反限定】(例示)「でも」「なんか」	例：お茶 <u>でも</u> 飲みましょう。
【極端】「まで」「さえ」「も」	例：餓死寸前になって、雑草 <u>まで</u> 食べた。
【反極端】(普通)「なんて」「ぐらい」	例：料理が苦手でも、ゆで卵 <u>ぐらい</u> 作れるよね？
【類似】「も」	例：トイレは 2 階にも <u>も</u> あります。
【反類似】(対比)「は」「なら」	例：現金 <u>は</u> ありませんが、カード <u>なら</u> あります。

ヒンディー語で上記のとりたて詞に相当するのは、*hii* (だけ、ばかり、こそ)、*bhii* (も)、*to* (は、なら) などのいわゆる focus particles (以下、とりたて詞) である。以下に例を示す。

【限定】*māi=hii jaantaa hūū*. (私だけ知っている)

限定は *hii* 以外に *keval, sirf* (ただ、単に、だけ) などの副詞によっても表される。

*māi=ne is=ke baare mē keval sunaa hai*. (私はこれについて聞いただけだ)

【反限定】6 種類のとりたて表現のうち、【反限定】を表すとりたて詞はなく、代わりに南アジアの言語に広く見られる部分重複 (partial reduplication, echo words) が用いられる。

*kuch caay-vaay milegii yaa nahī?* (お茶でも出してもらえるのかい?)

【極端】*tak* (まで) のほか、*bhii* (も) も用いられる。

*us=ne merii baat sunii=tak nahī thii*. (彼は私の話を聞きさえしなかった)

*aisaa=to māi=ne sapne=mē=bhii nahī socaa thaa*. (そのようなことは夢にもも思わなかった)

【反極端】*to* が【反類似】(は、なら) のほかに【反極端】(ぐらい) も表す。

*tairnaa=to sab=ko aataa hai*. (水泳ぐらい誰にでもできる)

【類似】*yah=bhii apne paapaa=ko bataao*. (これもお父さんに伝えて)

【反類似】*vah maans nahī khaataa. par machliyāā=to roz khaataa hai*. (彼は肉を食べません。けれど魚なら毎日食べます)

ヒンディー語の代表的なとりたて詞である *hii*, *bhii*, *to* はとりたて表現の意味分類に位置付けると、下表のようにまとめられる。

限定	<i>hii</i> (だけ、ばかり、こそ)	反限定	
極端	<i>bhii</i> (さえ、すら、も)	反極端	<i>to</i> (ぐらい)
類似	<i>bhii</i> (も)	反類似	<i>to</i> (は、なら)